

自 己 評 価 表

学校名 愛媛県立大洲高等学校

学校番号 30

教育方針	<p>国家社会の有為な形成者としての資質を養うために知性を高め、心身ともに健康で豊かな人間性と創造力を備えた人間を育成する。</p> <p>生徒の興味・関心・能力に応じた進路実現を目指し、社会の変化に主体的に対応し、社会貢献できる人材を育成する。</p>	重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 常に向上心を持たせ、自ら学ぶ態度を育てる。 2 優しい心と誠実な人生観を持った生徒を育てる。 3 知性を磨き、心身ともに健康で社会貢献のできる生徒を育てる。 4 創意を生かし、国際感覚の豊かな生徒を育てる。 5 読書や芸術に親しませ、豊かな感性を培う。 6 地域とともに歩む、活力のある魅力を持った学校をつくる。
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学 習 指 導	授業の充実	内容の精選、工夫に務め、生徒が対話的・主体的で深い学びを实践できるように、生徒の理解度が高まる授業を实践する。	B	生徒の実情に応じた指導、対話的・主体的で深い学びの实践ができた。	・さらに学習格差が大きくなってきているので、生徒の実情を詳細に分析し、生徒に合った指導方法を研究する必要がある。
	教科指導の研究	各種研修等を通して、各自の教科指導力を向上させ、教科の専門的な知識・技量を高め合うとともに、ICT機器の活用について研究と実践を深める。	B	各研修を通して、ICT機器を授業や課題の提出に活用することができている。	・多くの先生がICT機器の活用に力を入れ、授業の中での利用頻度が高まるように工夫する。
	生徒の皆勤率向上	1か年皆勤率各学年で70%以上、3か年皆勤率が50%以上を目指す。 1か年皆勤率(3か年皆勤率)の数値目標 A：70%以上(50%以上) B：69～65%(49～45%) C：64～60%(44～40%) D：59～55%(39～35%) E：55%未満(35%未満)	B	新型コロナウイルス感染症対策もあり、高い皆勤率となったが、実情は特定の生徒が多く休む結果となっている。その理由として学習進捗についていけないこともある。	・生徒の実情に合った指導方法を研究し、意欲的に授業や諸活動に取り組む生徒を増やす努力が必要である。 ・欠席理由を詳細に分類し、出席停止かどうかの判断が必要である。
	ホームルーム活動・総合的な探究の時間(良知)の充実	ホームルーム活動・総合的な探究の時間(良知)の内容を精選し、生徒が対話的・主体的で深い学びを实践できるように創意工夫する。	B	ホームルーム活動・総合的な学習・探究の時間(良知)の内容を精選し、工夫した活動になりつつある。外部機関との連携により地域に根差した活動ができた。	・3年間を見越した計画を考え、外部機関との連携を図りながら、意欲的に参加し、研究していける内容を考える必要がある。

※評価は5段階(A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	進路指導の充実	就職・進学共に合格率100%を目指す。 A：100% B：99～95% C：94～90% D：89～85%未満 E：85%未満	B	就職は100%である。 進学は、国公立大学80名以上の目標には及んでいないが最後まで頑張らせた。	・年度当初から志望校を明確に意識させ、バランスの取れた学習に取り組ませる。
		国公立大学合格者80名以上を目指す。 A：80名以上 B：79～75名 C：74～65名 D：64～60名 E：59名以下	B	前期試験終了段階で、75名の合格者を出すことができた。後期試験まで頑張らせることで目標とする80名を達成できるようにしたい。難関国公立大学は7名の合格者となった。ここ10年間で一番多い数ではあるが、達成することはできなかった。就職内定率に関しては、公務員を含め順調であった。	・来年度は3年生が1学級減のため、目標数値を変更しなくてはならない。一人一人の進路目標に合った適切な進路指導を行うことで、合格者数を確保できるように尽力したい。また、推薦入試をうまく活用し、生徒の個性を活かした進路指導も行いたい。就職に関しても内定率100%を目指して頑張りたい。
		難関国立大学合格者数10名以上を目指す。 A：10名以上 B：9～8名 C：7～6名 D：5～4名 E：3名以下	C		
		就職内定率100%を目指す。 A：100% B：99～95% C：94～90% D：89～85% E：85%未満	A		
		家庭学習時間は1・2年生は3時間以上、3年生は4時間以上を目標に、計画的に学習に取り組ませる。 1・2年生(3年生)の数値目標 A：3時間以上(4時間以上) B：2.9～2.5時間(3.9～3.5時間) C：2.4～2.0時間(3.4～3.0時間) D：1.9～1.5時間(2.9～2.5時間) E：1.5時間未満(2.5時間未満)	C	6・11月に調査した結果による1日平均の家庭学習時間は 1年：121分 C 2年：143分 C 3年：237分 B であり、特に休日の学習時間は充実しているが、反面平日が伸び悩んでいる。	・日常の学習への取組を習慣化させ、家庭学習時間の確保に努めさせる。また規則正しい生活を確立させることで、安定した学習時間を確保させる。平日にできなかったことを休日に補うというスタイルを身に付けさせる。
生徒指導	生徒指導の充実	教職員の共通理解を図り、連携して指導にあたり、特別指導件数0を目指す。 A：0件 B：1件 C：2件 D：3件 E：4件以上	A	担任、学年主任、関係各課が連携して生徒指導を行った。 特別指導は0件である。	・引き続き連携を密にし、組織として生徒指導に努める。
	規範意識の向上	基本的な生活習慣の確立を図り、特に、礼儀、授業態度、清掃、身だしなみ、情報モラルについて指導にあたる。	B	あいさつ、身だしなみなどおおむね良好である。落ち着いた雰囲気ですべての生徒が送れている。	・スマートフォンの取り扱いについて指導を徹底する。
	交通安全指導の充実	安全意識の高揚に努め、交通事故0を目指す。自転車通学生のヘルメット着用率100%を目指す。 A：100% B：99～98% C：97～96% D：95～94% E：94%未満	C	自転車通学生のヘルメット未着用での指導は0であったが、自転車乗車中の接触事故が3件発生した。	・警察署やPTA、交通委員会などと連携を図り、交通安全の啓発活動を充実させると同時に交通事故0を目指す。
	教育相談の充実	ホームルーム担任を中心に、学年主任、養護教諭、スクールカウンセラーなどの校内関係者、及び外部の関係機関と連携協力し、学校不適応傾向生徒の早期発見・早期対応に努める。	B	ホームルーム担任を中心に、学年主任、養護教諭、スクールカウンセラーなどの校内関係者、及び外部の関係機関と連携協力して対応している。今年度進路変更した生徒は、昨年度(9名)に比べて約半数(4名)になった。	・校内関係者及び外部関係機関との更なる連携を図り、学校不適応傾向生徒の早期発見・早期対応に努める。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
特別活動	部活動の充実	いじめ、体罰等を根絶する。休養日を設定し、安全かつ健全な活動を推進する。 全運動部の県総体出場を目指す。 部活動加入率95%を目指す。 A：95%以上 B：94～93% C：92～91% D：90% E：90%未満	B C A	「大洲高校における部活動に係る活動方針」に基づき、部活動の充実をはかることができた。 全運動部の県総体出場はかなわなかったが、162名の生徒が出場した。 部活動加入率は97.5%（5月1日現在）であった。	・いじめ、体罰の根絶に努め、健全な活動になるように取り組むと同時に、新型コロナウイルス感染症の予防対策を徹底し、安全・安心な部活動に努める。
	学校行事の充実	生徒、教職員が協力して取り組み、活力ある学校行事にする。 地域を元気づける藤樹祭にする。	B	新型コロナウイルス感染症予防に最大限配慮した上で、規模を縮小し制限がありながらも学校行事を行うことができた。	・引き続き新型コロナウイルス感染症の予防対策を徹底し、可能な限り学校行事が行えるように努める。
安全管理	緊急時の対応	防災、安全意識の向上を図る。 緊急時の対応及び避難方法を全員に周知徹底する。	B	原子力防災訓練やシェイクアウトえひめなど、年3回の防災避難訓練を実施することができた。	・各機関との連携をさらに深めるとともに、緊急時に素早く対応できる実践力を養いたい。
	安全点検	毎月の安全点検を行い、修理・修繕等事故防止のための安全管理を徹底する。	B	毎月の安全点検を行い、安全な教育環境の整備に努めた。	・毎月の安全点検に加えて、日々の点検を徹底する。
保健管理	健康教育の充実	生徒の健康状態を把握し、事後措置を迅速に行う。 生徒の健康に関する自己管理能力の向上を図る。	B	保健調査や健康診断によって生徒の健康状態を把握し、受診等が必要な生徒については、個別指導によって事後措置を徹底することができた。 毎月の保健だよりや生徒保健委員会活動、必要に応じての情報発信等を通して、新型コロナウイルス感染症対策についての啓発活動を行い、意識の向上を図った。	・個別の保健指導を丁寧に行い、迅速に事後措置が完了できるよう努める。 ・生徒保健委員会活動をより充実させ、健康教育の啓発に努める。 ・引き続き、新型コロナウイルス感染症対策について啓発活動を行い、生徒自身の健康に関する自己管理能力の向上を図る。
組織運営	職員会議	各種会議において、効率的な計画を立て、議題の精選に努め、時間短縮を図る。	B	全般的に議題は精選され、時間短縮ができた。職員会議は勤務時間内に行えるように時間設定ができた。	・職員会議以外では勤務時間外に及ぶ会議もあった。各種会議についても議題の精選に努めるとともにできる限り勤務時間内に終わるように時間設定をする。
	校内組織の充実	教職員間の意思疎通を深め、連携・協力体制を確立する。	C	「校務分掌の構成が適材適所となっている」が、17%低下し、60%程度で一昨年までの数値に戻った。	・教職員間の連携・協力体制はできているが、校務分掌について適材適所でないと感じている教職員が増えている。本年度の状況を踏まえ改善していきたい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
図書 研修	朝読書の充実	学校全体で朝読書に取り組み、落ち着きのある充実した高校生活を築く一助とする。	B	全校で取り組む姿勢がみられた。	・更に朝読書の徹底を継続したい。
	図書館の活用	図書館に蔵書されている本の情報を積極的に発信する。学年、ホームルーム、教科と連携を図りながら、図書館の利用を促進し、年間貸出冊数一人当たり5冊以上を目指す。 A：5冊以上 B：4.9～4.0冊 C：3.9～3.0冊 D：2.9～2.0冊 E：2.0冊未満	D	貸出冊数は2.1冊で目標を達成できなかったが、図書館の利用者数は増加した。教科やホームルームでは工夫した図書館利用がみられた。	・生徒が図書館を訪れる回数が増えるような工夫をする。生徒が魅力を感じるような図書を選定し、分かりやすい情報発信をする。
	校内研修	相互授業参観や校内研究授業等を充実させ、授業力向上を図る。	B	本年度相互授業参観および校内研究授業は適切に行われた。	・ICT機器の活用やアクティブ・ラーニング等の校内研修の一層の充実を図る。
	自己研修	校外研修の情報を的確に伝え、積極的な参加を促し、教科に関する指導力、授業力の向上を図る。	B	校内研修への積極的な参加がみられた。	・校外研修等の情報を的確に伝え、さらに多くの教職員の研修参加について啓発する。
	公開授業	P T A総会、ホームページ等で周知し、参観者の増加を図る。	C	新型コロナウイルス感染症の影響でP T A総会時の公開授業は行えなかったが、公開授業週間は実施できた。	・新型コロナウイルス感染症の影響は次年度も続くと考えられるが、感染対策を十分取り、参観者を増やしたい。
教育 目標	目標設定	本校の実情や生徒の実態に合った教育目標を設定する。	C	保護者アンケートの「教育目標が適切である」についての回答は昨年度70%台に低下したが、本年度も同じである。	・新型コロナウイルス感染症に対して、感染対策を十分取り、保護者が学校の状況を直接知る機会を作れるように努めるとともに、ICTを活用し、情報を伝える機会を増やす。
	生徒と保護者への周知	ホームページやP T A総会等で生徒や保護者に対して教育目標の周知を図る。	C	新型コロナウイルス感染症の影響でP T A総会など保護者が参加する学校行事が中止または縮小されたため、昨年同様十分な周知ができなかった。ホームページの更新は円滑に行われた。	・本年度はICT機器の活用を増やし、周知方法を工夫したが、十分ではなかった。動画等の配信を増やすなど改善をしていきたい。

※※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
情報提供	情報提供	ホームページやPTA月報の内容を充実させ、学校の情報を積極的に公開する。	B	ホームページの更新を全教員が行うようになり、ホームページは昨年度より充実した。	・本年度もteams等を使い、情報提供をしてきたが、教職員の研修を進め、さらに情報提供の機会を増やしたい。
	保護者との連携	生徒の学校生活がさらに充実したものになるよう、PTAとの連携を深める。	C	ICTを活用し、昨年度より情報提供の機会を増やしたが、新型コロナウイルスの影響で保護者が参加する学校行事が中止または縮小された影響は大きく、コロナ禍前の評価には戻らなかった。	・新型コロナウイルス感染症の影響は次年度も続くと考えられるが、感染対策を十分取り、保護者が学校の状況を直接知る機会を作れるように努める。また、ICTの活用もさらに進めたい。
人権・同和教育	いじめ対策	いじめの防止・いじめの早期発見を心掛け、いじめや差別のない明るい学校づくりを目指す。 「学校生活アンケート」については、無記名でのアンケートの実施も考える。	C	クラスや学年等の対応で問題解決に向けて進んでいる。学校生活アンケートは1、2学期無記名で実施し、実態の把握に努めることができたと考える。	・学校生活アンケートの無記名、記名の両方のメリットが生かせるよう、併用して行うなど、問題の早期発見と解決に向けて取り組んでいく。
	人権・同和教育の充実	人権問題を自分のこととして捉え、差別を無くす行動につながる学習内容を充実させる。 人権だよりの作成や公開授業・人権集会等への案内、学校ホームページの活用を通して、保護者・地域との連携を強化する。	C	ハンセン病や拉致問題について扱い、これらの問題についても多くの生徒の関心が高まった。また、学校での学びを家庭でも話していく生徒もおり、保護者との連携にもなっている。	・地域で起こった身近な人権問題や新しい学びについて、生徒の興味・関心が高まると考えられるので、次年度の学習でも題材を工夫していきたい。
教育環境	教育環境の充実	美化委員会を中心に家庭クラブ等と連携し、清掃活動を充実させて、校内の美化に努める。	B	毎日の清掃活動や美化委員会による美化活動を通じて、快適な環境整備ができた。	・清掃活動を充実させ、環境美化に努める。
業務改善	適切な業務時間	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。 校務支援システムの活用を推進し、業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	B	昨年度、勤務状況は改善され、勤務時間外の労働は減少したが、コロナ禍で新たな業務が生じるなど、業務時間の減少に関しては難しい面も見られた。	・適切な研修を行い、業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。
	職場環境の整備	「健康と職場環境に関するアンケート」を実施し、健康、衛生、安全面での課題について実態を把握し、改善が必要な場合は速やかに対応する。	B	衛生委員会において「健康と職場環境に関するアンケート」を実施して現状を把握し、改善に努めた。 「健康相談室だよりの」配付等を通して、職員の健康に関する意識の向上を図った。	・引き続き、実態の把握に努め、必要に応じて関係者と連携して環境を整えていく。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。